

町長と語る会（よませふれあいセンター） 議事録（要旨）（職員用）

●意見交換

意見 確かにこれから観光客は増えると思う。それに伴い観光業に従事する方は増えていくのかもしれない。一方でサービス業に従事する方がどんどん減っていくのではないかと心配している。

町長 観光業にしてもサービス業にしても農業にしても人材不足が顕著になっている。観光業でもスタッフがいないからホテルがフル稼働できないという問題も現実としてある。それらの確保に向けて明確な答えはないが、ある国では、いろんな外国人の労働力が混ざり合いながら成立している場所もある。今後、日本もそうなるのではないかと考える。また、地域あげて工夫しながら魅力づくりをしていくなり、外国人や女性労働者もそうですが、労働者が住む場所や住む空間を増やす取り組み、住みやすい環境づくりも進めなければならない。そういう努力を町ではしていきたい。

意見 町の扶養の税金が住んでいるところによって変わってくると聞いた。普通、扶養の関係は100万とか103万であるが、町は97万でほかの町とは違うと言われたが。働いても税金がとられるのであれば厳しい。やっぱり女性も働きたい。

収入 93 万円以下＝配偶者控除可能、住民税均等割非課税、所得税非課税

収入 103 万円以下＝配偶者控除可能、住民税均等割 5,500 円、所得税非課税

収入 103 万円以上＝配偶者控除不可能、個人住民税均等割 5,500 円、所得税課税

●非課税とできる限度額は町は93万円以下であるが、これは、国で定めている「級地区分」よるものであり、町で変更することはできない。

●県内では、長野市・松本市・上田市・岡谷市・諏訪市以外の市町村は当町と同じである。

意見 ファミリーサポート事業を行うのは構わないが、もう少し保育園の延長保育や児童クラブを充実させていただければありがたいと思っている。私自身5歳と1歳の子どもを保育園で延長保育を利用して、夕方6時30分まではいいはずだが、夕方6時くらいに迎えに行くと一人でポツンとかばんを背負って帰り支度を済ませテレビを見せられている。延長保育の先生はその後ろで掃除機をかけていた。子どものそんな姿を見たら私たちは自分の生活を変えて、仕事を変えて、子どもたちにそういう思いをさせないほうがいいのではないかと考えることもある。そんなこともあるので、そういうところを充実していただければよいのではないかと。私たちがみたいのは、元気いっぱい保育園で遊ぶ子どもたちである。山ノ内町に住んでいれば、中野市や場合によって長野市へ子どもを預ける選択肢もあるし、町の保育園に子どもを預けたいと思えなくなる。

町長 自治体によっては保育事業の充実で人口を増やしている場所もある。子どもを育てやすい環境をしっかりと検討していきたい。保育園の担当課とも話ながら改善していきたい。

意見 延長保育をシルバーで対応しているのが問題であると思う。小学校の統合問題、教育の充実も大事であるが、だれもが通る乳幼児期のサポートこそ充実してほしい。

健康福祉課長 園児の母親の方々ともお話をしているが、保育園の預かりではなくて、別の、大勢の大人とかかわることによって子どもの成長が促されるんですよというご意見もあったので、ファミリーサポート事業につながったが、保育園の仕組みももちろん充実させていく。

町長 保育士の人材確保、財源の問題などなどクリアしていかなければいけない課題もあるが、そういったことも含めて検討していきたい。

意見 保育士として勤務している。小学校と保育園の子どももいて、保育園側、保護者側の両方の立場がわかる。財源の確保というところで、町は出産育児祝金でお金がたくさんですが、お金をあげるというところに焦点が当たりすぎていて、移住者が増えているわけではないような気がする。町にそれを言えば、一度はじめたからすぐに変えることはできないと言われた。でも、見直しは必要と思う。財源を確保するためには出産育児祝金などの見直しが必要と思う。

町長 お金を出せば子どもを産んで育てますということでないことは私も思っている。ただ、その祝い金をなくしたからといって、保育園への充実のニーズをすべて満たせるわけでもないと思う。同じ子育ての分野の中で減らして増やすというのではなく、子育ての分野に費やせる財源を増やすために、別の部分で工夫をするということが大事と思う。出産育児祝金はせっかくはじめた事業なので継続しつつ、保育行政の充実もどうすれば充実していくのかをしっかりと検証していきたい。

意見 小学校が一つになる問題で、野沢温泉村などは英語教育に力を入れている。そういういい事例がある場所に視察に行ってください、山ノ内町と比較したらどうことができるのか等、考えていただいてから統合のことを検討してほしい。

町長 そのとおりであると思う。

意見 ふるさと納税の件ですが、仲間たちと手作り味噌でふるさと納税に参加していた。しかし、高齢化により味噌づくりができなくなりそうで心配である。実際に今年でやめよ

うかと考えているが、やめないでほしいとの声もある。また、味噌の加工所も難しい状況となっていて、町として、そういったところにどのくらい援助していただけるのか。

町長 ふるさと納税の枠組みでは、何かを生産する、その生産の部分に何かを支援するということはない。生産者の皆さまへのサポートというのは、産業発展という意味で町で何かつかえる補助金があるかもしれない。そういった課題があるということはご意見として頂戴する。

意見 ちょうど1年前くらいに宇木区内から楽ちんバスを宇木区に通してくれないかと区に陳情があり、総務課と話し合いを進めてきた。区で輸送ボランティアを始めようというところで、町でデマンド交通の実証運行のお話もあるので、町のデマンド交通でカバーできないような細かい部分は、区でも協力したいと思っているので、ぜひ使いやすいようなデマンド交通を検討していただきたい。

総務課長 宇木区は楽ちんバスのバス停がないということと、須賀川からの中野市までの直通バスがなくなったということで、今年それらをカバーする実証運行を行う。使いやすいデマンドを目指して、実証運行に始めるにあたっては、乗り方講座などを開催する。誰でも簡単にご利用いただけるような方法を検討していくので、皆さんぜひご利用いただければと思う。

町長 なるべく早い形で定番化するようなシステムにしていきたい。

意見 去年移住してきた。0歳の子どもがいる。いろいろな母親と話していると、山ノ内町の未満児の保育園入園について、少なくとも5人以上落ちている。さらにそのうちの一人は次の時期にも保育園は入れなければ、中野市の保育園に入園させるといっており、かなり切羽詰まっている。また、中野市の保育イベントで知り合った母親4人は、皆さん山ノ内町出身であるが、全員中野市に引っ越したとのこと。すごく寂しいことと思う。町長がおっしゃる孫たちが帰ってくる町づくりは先ほどからの意見でもありますが、子育て支援を充実しなければ、そこにつながらないのではと感じる。今の保育園の待機児童の状況について教えていただければと思う。

健康福祉課長 お話のとおり未満児さんの関係について、保育士も責任をもってお預かりする関係で、何人の何歳児さん一人につき、何人保育士を配置しなさいよという基準があります。いま、かなり切羽詰まった実情があるということをお伺いしたので、検討していきたい。ただ、保育士の確保が難しいという面もあり、保育士の確保ができないことにはどうしようもないという部分もご理解いただければと思う。待機児童は基本的にはいないという認識。未満児については保育の必要性があるのかどうかという部分を考慮しての保育認定となる。

意見 中野市は保育士が時間で働ける制度がある。保育士が登録制で柔軟に働ける環境が整っているが、山ノ内町はない。私の周りには、保育士の免許は持っているが、毎日朝から夕方までは働けないという方がいる。そういう時間で働ける仕組みがあれば保育士不足の関係も解決するのではないか。

町長 いいアイデアだと思うので、検討してみたい。

意見 浜に児玉悠作という青年がいる。陸上で大変な活躍をしている。これは、町として一体となって応援する体制とかはいかがか。

町長 町としてもサポートであったり、応援したりする体制は作りたいと思っているので、町の管理職の皆さんとも相談したい。

意見 町内には幼稚園がない。幼稚園の設立は検討しているか。

町長 幼稚園を設立は難しいなと思う。保育園を充実させていくことが重要と思う。親が働いてなくても預けられるような施設が欲しいという意図だと思うが、保育園でそれができるのかどうかは現実的には難しい。

意見 町内に住民票を置いている子どもは親の勤務地が中野市等の条件がなければ中野市の幼稚園に預けられないがそれはなぜか。

健康福祉課長 幼稚園ということであれば、親の勤務先などの条件がなくても通園が可能。

意見 山ノ内町の保育園の一時預かりは1歳からであるが、ぜひ6か月とかから預かれる環境を作ってほしいし、それができないのであれば、中野市と提携して中野市のハブリックでも山ノ内町の乳幼児を預かっていただけるようにしてほしい。

健康福祉課長 検討する。

●閉会